

視点 21

筑波大学教授退任記念

中村義孝 彫刻展

— 物語の森 —

2019年7月30日(木)～8月4日(日)

茨城県つくば美術館

主催：筑波大学芸術系彫塑研究室

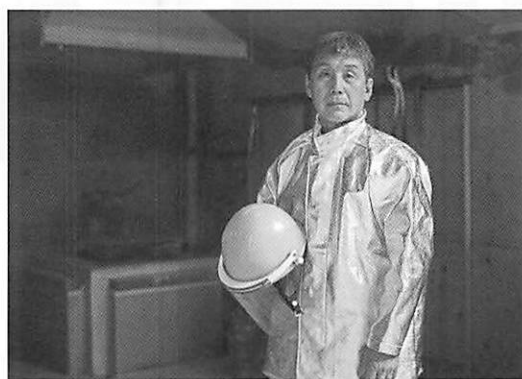
助成：朝日新聞文化財団

後援：つくば文化振興財団、ヴェナンツォ・クロチェッティ財団、イタリア文化会館、日本鋳造家協会、一陽会

中村義孝

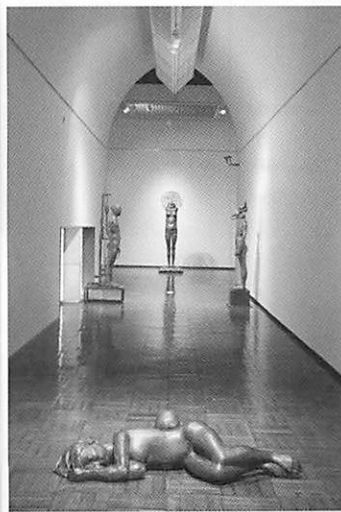
筑波大学を定年退職したのを記念し、茨城県つくば美術館で在職中に制作した代表作品を中心に標記の様な個展を開催いたしました。

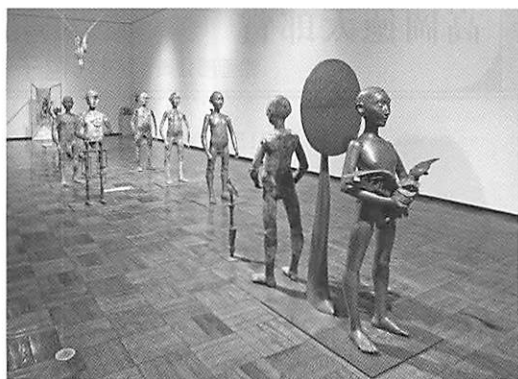
本展は、作家自らが鋳造から仕上げまでを行う一連の制作を通して、今日の具象彫刻の在り様とその表現の可能性を追求した34年に亘る作品制作の軌跡を紹介したものです。エントランスから第7室に至るスペースに作品35点を展示



し、絵本のページをめくり物語が展開するような展示構成を試みました。

6日間の短い展示期間ではありましたが1000名を超す来場者があり盛況のうちに終了することができました。六崎敏光先生、小林達也先生はじめ一陽会彫刻部の方々、細川尚先生、瀧田清先生、館野弘先生など絵画部の方々にもたくさんお越しいただきましたこと感謝の念に堪えません。また、東京藝術大学、多摩美術大学、武蔵野美術大学、東京造形大学、日本大学芸術学部、女子美術大学、愛知県立芸術大学、横浜美術大学等の大学教員・退任教員や学生・卒業生、日展等の各美術公募団体で彫刻を専門的に制作されている方々にも多数来場して頂き、彫刻





造形やブロンズ技法等における話題で交流をおこなえたことは大きな喜びでした。

そして、科学研究費補助金を受けておこなったイタリア式蠟型鑄造法による彫刻表現の研究(2010年度~2018年度)に関連した組織からも後援をいただきましたが、特に日本鑄造家協会には会期中、協会会長はじめ会員の方々にも来場して頂き、彫刻界におけるブロンズ彫刻の活性化についても連携を深めていくことを確認しました。その他、茨城県近代美術館、彫刻の森美術館、吉祥寺美術館、常陽藝文センターはじめ美術館・画廊の関係者や海外(台湾)からもご来館くださり貴重なご意見を頂きました。

一般の方々にはブロンズ彫刻がどのようにし

て出来上がるのか、彫刻家は何を考えブロンズ彫刻を作り上げていくのかなど、この機会に理解を深めて頂くことも展覧会の目的の一つとして捉えていたので、粘土原型制作から蠟原型制作、鑄型制作、鑄造、仕上げなどの過程を解説したパネルを展示し、制作途中の現物作品及び道具の展示空間も設けました。会期中、茨城大学学生、茨城県東海村美術サークル、竹園高校など近隣の高校生、一般鑑賞者にこの展示コーナーを利用し解説をおこなったところ、多数の質問が出て充実した交流の時間を持つことができました。また、近隣の障害者施設の団体鑑賞者や視覚障害者にも解説を行いました。

8月3日には講演会を開催し、1時間に亘って初期の作品から最近作まで、制作時期の時代背景も含めてパワーポイントの映像を交えて講演を行いました。彫刻関係者及び一般の方々にも蠟型ブロンズ彫刻についての理解を深めていただく良い機会となりました。100席を用意していましたが、それを上回る参加者がありました。

最後に、この展覧会を見ていただいた台湾の麗寶文化藝術基金會から台湾での個展のお誘いを受け、現在、展覧会開催(2020年4月~7月)にむけて準備中であることを報告しておきます。

